

(3) 八峰町・岩館地区

① 取組内容と実施スケジュール

モデル自治体・地区では人口分析・推計に加えて現地調査・ヒアリング、2回のワークショップ、市町報告会を実施した。以下が実施概要である。

■現地調査・ヒアリング

・町役場担当者へのヒアリング

日時 2021年7月8日(木) 10:00-11:30

場所 八森保健センター

対象 企画財政課2名、八峰町社会福祉協議会1名

・対象地区住民代表へのヒアリングおよび現地調査

日時 2021年7月8日(木) 13:00-16:00

場所 漁火の館および岩館地区各所

対象 自治会長3名

■ワークショップ(1回目)

日時 2021年10月20日(水) 19:00-21:00

場所 岩館生活改善センター

参加 14名

■ワークショップ(2回目)

日時 2021年12月1日(水) 19:00-21:00

場所 岩館生活改善センター

参加 11名

■八峰町報告会

日時 2022年3月6日(日) 9:30-11:30

場所 八峰町文化交流センター ファガス

参加 50名

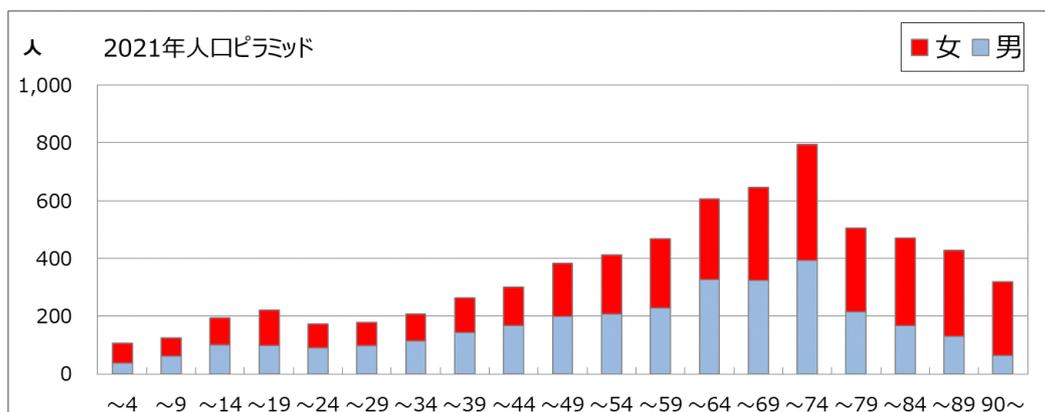
② 人口分析・推計（八峰町全体）

委託機関が構築した人口推計シミュレーションプログラムを用いて八峰町全体での人口の現状分析、パターン別人口推計シミュレーションを行った。

1) 現状分析（2016～2021年）

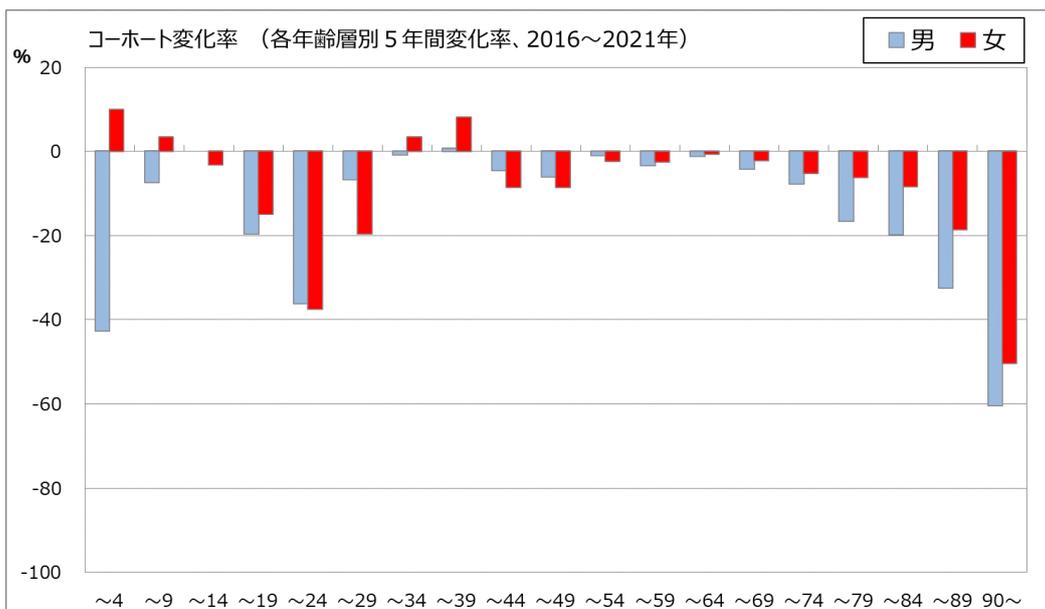
八峰町全体の人口構成と過去5年間（2016～2021年）の人口動態の推移を示す。

i. 年代別人口構成



人口総数6,777人の内、70代前半が最多の792人、次いで60代前半が645人となっている。最も少ないのは0～4歳の105人、その次に少ないのが5～9歳の125人で最も多い70代前半の人数と比較して少ない年代はその14%前後の人数となっている。

ii. 年代別コーホート変化率



これは2016年から2021年の5年間の各年代における人口増減を変化率で示したもので

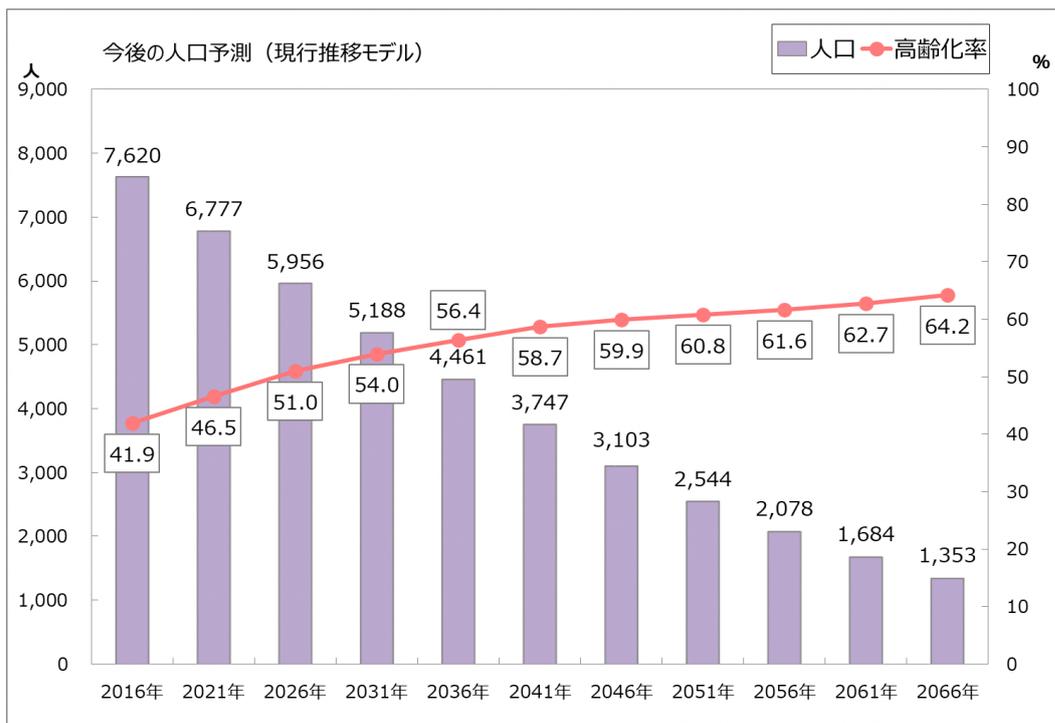
ある。例えばこの図で示される「～19」は「15～19歳」の10代後半のことで、数値はこの年代の2016年時点の「10～14歳」の人口と比較してどの程度の増減（主に社会増減）をしているかを表している（0～4歳のみ5年前の比較が出来ないので各時点での人数を比較）。また、高齢年代の減少の多くは自然減である。

八峰町では0～4歳女性、5～9歳女性、30代前半女性、30代後半男女に増加が見られる。子どもとその親世代の増加ではないかと推測出来るこの変化は良い兆候である。しかし、10代後半～20代全般にわたっては実数にして171人の減少となっており、この減少分の取り戻しは全く出来てはいない状況である。また、理由は判明しないものの0～4歳代の増減率には男女間に顕著な差が見られる。

2) 現状推移シナリオ

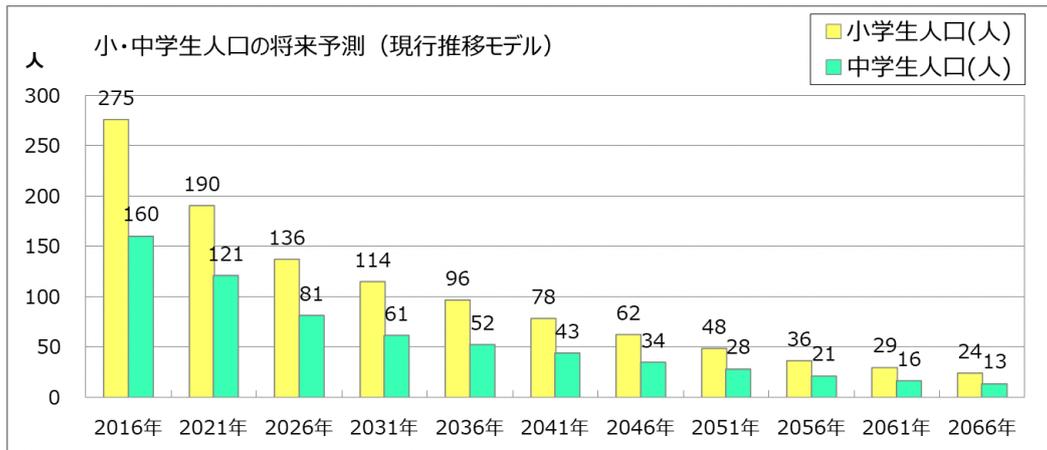
過去5年間（2016～2021年）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討する。

i. 人口と高齢化率予測



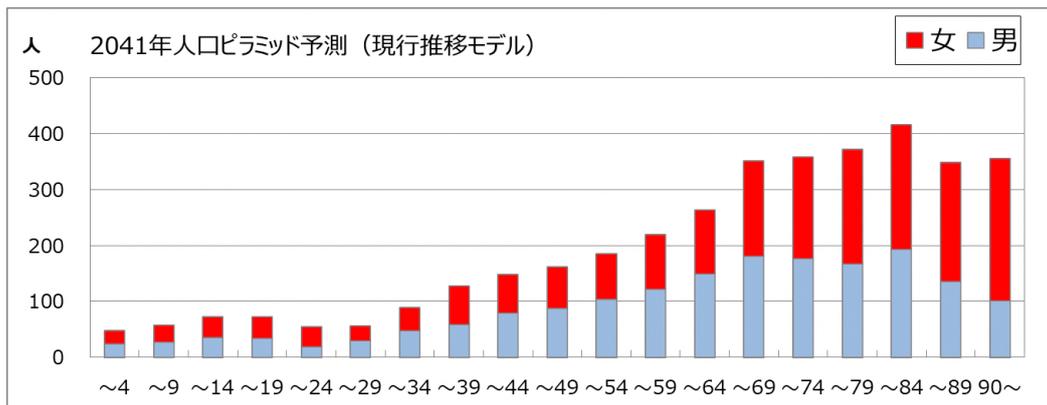
若年層を中心とした流出と高齢者割合の高まりから、高齢化率は20年後の2041年までに12.2ポイント上昇し58.7%に達し、その後も緩やかに上昇し続けるものと推計されている。人口総数は減少の一途で、2021年比で20年後の2041年には55.3%、さらに45年後の2066年には20.0%まで減少すると推計されている。

ii. 小・中学生数予測



過去5年間の出生数や社会増減を基に予測する限り、小・中学生数も著しい減少となる。2021年比で20年後の2041年には38.9%、45年後の2066年には11.9%となり、人口総数以上に著しく子どもの人数が減少すると推計されている。

iii. 2041年（20年後）の年代別人口構成



最も多い年代は80代前半の416人となっており、20年前の70代前半が最多の792人であったことを考慮すれば、ピークの年代層が10歳高齢化し、さらにその人数がほぼ半減するということである。特に30代後半より若い各年代層は100人を割り込むことが予測されている。

3) 人口安定化シナリオ

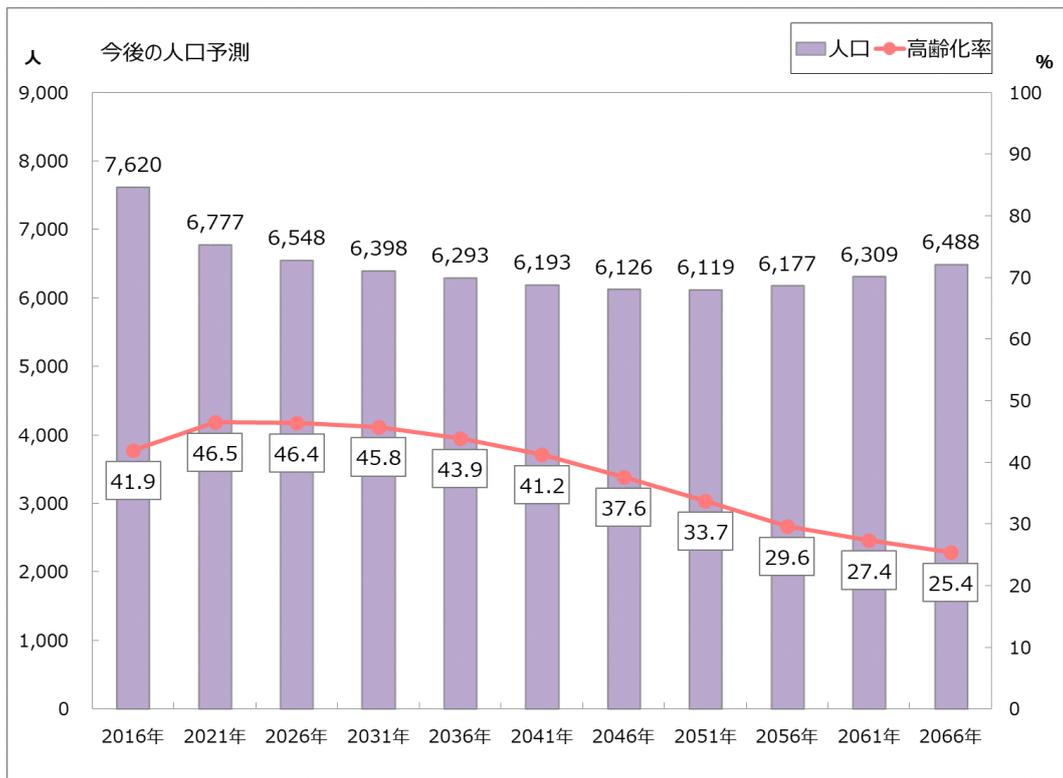
人口安定化シナリオは合計特殊出生率、10代後半の流出率、定住増加数の3つの要素を組み合わせで検討する。人口の安定化には出生率と10代後半の流出率を改善させ、過去の若年層の人口流出を補うように、20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代のバランスのとれた定住を増加させることが望ましいと思われる。今回の組み合わせでは、出生率は2015年に策定された八峰町人口ビジョンの推計に準じて2041年には1.94、2046年以降は2.07へと段階的に上昇させる設定とした。10代後半の流出率は現状の半分となるように設定した（詳細は参考資料に記載）。10代後半の流出率を半分に抑制するという仮定は現実には多くの困難が予想される。しかしながら、この部分を具体的に検討する端緒となることを期待しこの設定とした。定住増加数の対象は20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代として毎年各13.2組、92.4人（八峰町の2021年人口の1.36%）の誘致数とした。以上の条件設定で、出生率、流出率、定住増加数の3要素を組み合わせた人口安定化シナリオを検討する（下表参照）。

表 人口安定化シナリオの設定数値

合計特殊出生率 (%)	10代後半流出率 (%)		定住増加数・率/年	
	現状	設定値	各世代 (世帯)	13.2
2021～2026年	1.52			
2026～2031年	1.63	男性	36	18
2031～2036年	1.73	女性	37	19
2036～2041年	1.83			合計世帯数 (世帯)
2041～2046年	1.94			合計人数 (人)
2046年以降	2.07			2021年人口比 (%)
				1.36

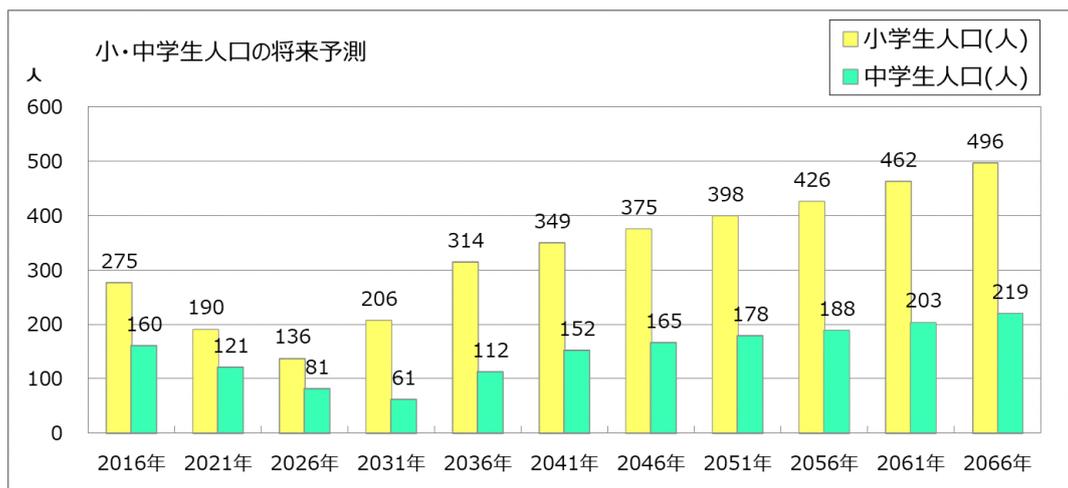
注：20代前半夫婦は1組（世帯）2人、30代前半子連れ夫婦は1組（世帯）3人、60代前半夫婦は1組（世帯）2人と設定。

i. 人口と高齢化予測



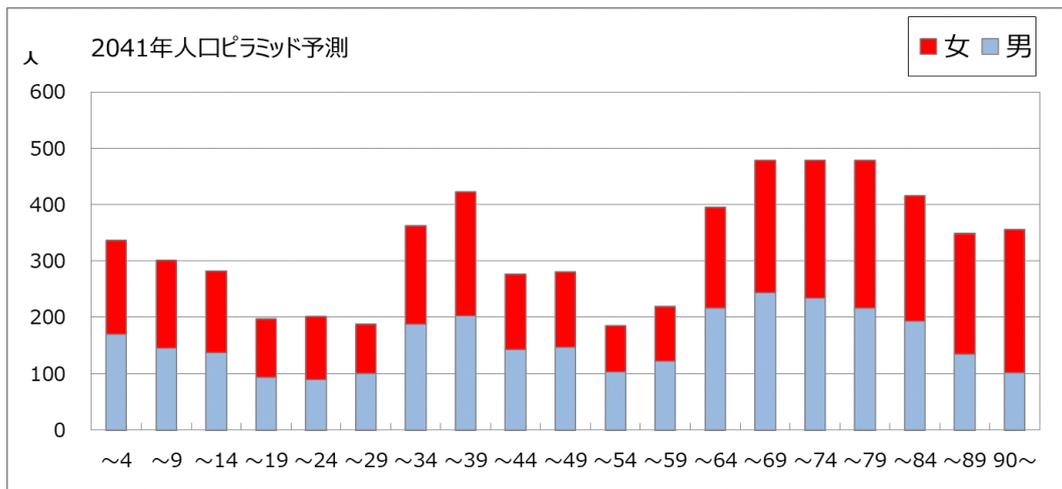
2021年人口の1.36%に相当する人数を毎年、呼び込むことが出来れば、人口総数、高齢化率ともに長期にわたり安定化が達成される。

ii. 小・中学生数予測



小・中学生数は、2031年頃からは増加に転じる。20年後の2041年には現在の小・中学生数の1.6倍程まで増加すると推計された。次頁に示す人口ピラミッドはこの年代層の取り戻しがあって初めて安定的な状態を示すものである。

iii. 2041年（20年後）の年代別人口構成



60代後半以降にピークがあるのは現状推移モデルと同じであるが、人数は増えており、その他にも30代とその子ども世代である10歳未満の年代層にもピークが確認出来る。現状推移モデルと比較しても次世代へとつながりが感じられる年代構成となることが推計される。

③ 人口分析・推計（八峰町内全地区）

次に八峰町内全地区における人口分析・推計結果を掲載する。その内、2016～2021年の地区別コーホート変化率については一覧表で、それ以外の主だった分析・推計については地図上で色分けした図で表示する。

■2016～2021年八峰町地区別コーホート変化率

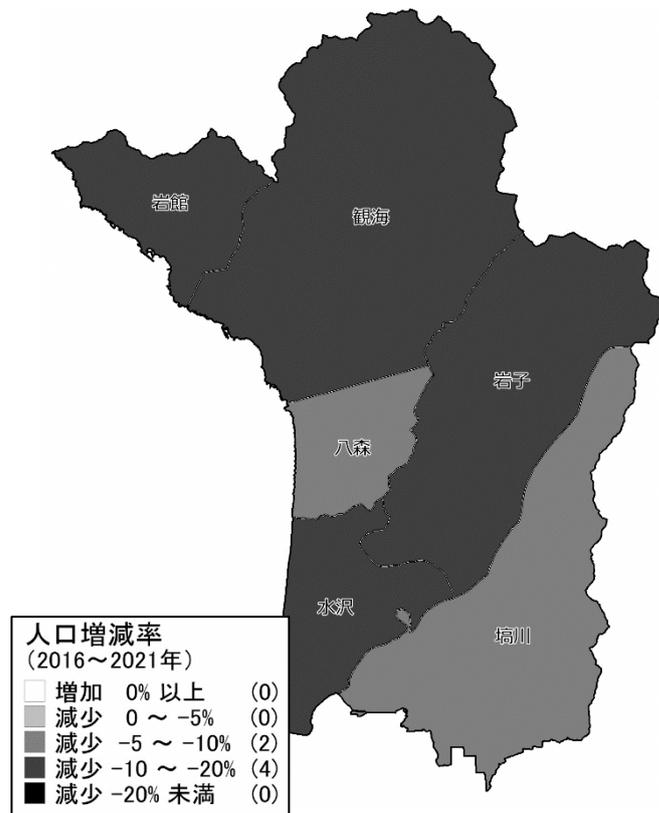
地区名	性別	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳
水沢	男	0.38	0.85	1.07	0.86	0.60	0.94	1.03	1.03	0.91	1.03	1.05	0.93	0.98	0.98	0.91	0.81
	女	0.88	1.18	1.08	0.93	0.50	0.65	0.76	0.95	0.90	0.96	0.97	0.97	0.98	1.00	0.93	1.04
岩子	男	0.33	1.00	1.00	0.50	0.25	0.50	1.00	1.50	1.00	1.00	0.80	1.00	1.07	0.87	0.95	0.63
	女	2.00	2.00	1.00	1.00	0.33	0.50	0.80	0.67	1.00	0.90	1.00	1.00	1.00	0.94	1.00	0.77
塙川	男	1.09	1.18	1.05	0.88	0.74	1.00	1.00	1.11	0.95	0.95	0.97	1.02	0.99	0.98	0.95	0.84
	女	1.40	1.10	1.00	0.78	0.86	1.05	1.59	1.17	0.88	0.93	0.98	1.00	1.02	1.00	0.98	0.88
八森	男	0.71	1.29	1.07	0.86	0.68	0.87	0.90	0.88	1.00	0.85	1.11	1.03	1.10	0.91	0.95	0.88
	女	1.27	0.73	0.92	0.77	0.77	1.00	1.00	1.46	1.04	0.88	1.03	1.03	1.00	0.94	1.03	0.95
観海	男	0.75	1.00	0.96	0.79	0.72	0.84	1.09	0.94	0.98	0.90	0.91	0.91	0.93	0.93	0.90	0.85
	女	1.06	1.00	0.92	0.89	0.52	0.69	1.18	1.17	0.89	0.91	0.96	0.95	1.00	1.00	0.89	0.90
岩館	男	0.33	0.44	0.67	0.40	0.47	2.00	0.86	0.89	0.92	0.81	0.89	0.96	1.00	1.00	0.91	0.89
	女	0.60	1.00	0.80	0.83	0.73	0.83	0.56	0.80	0.86	0.80	0.93	0.94	0.97	0.91	0.91	0.94

注：コーホート変化率の計算方法は参考資料に掲載のとおり。

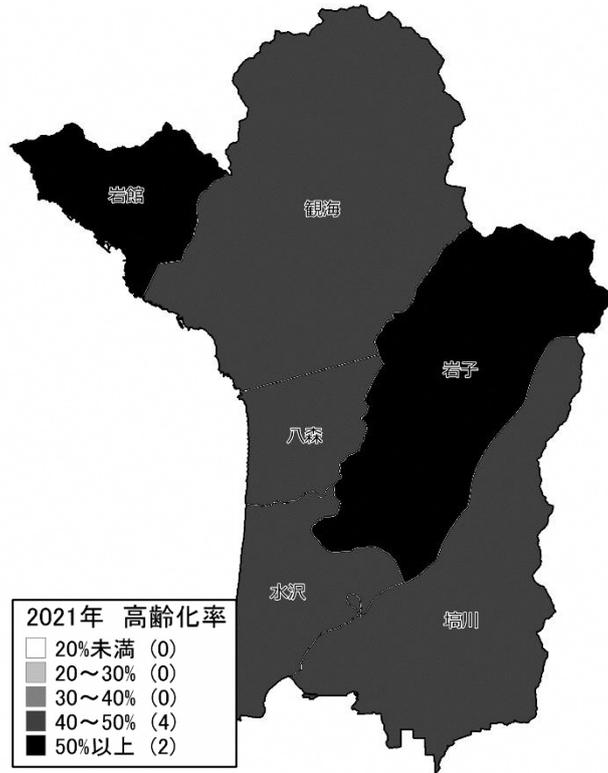
上表は2016～2021年八峰町地区別コーホート変化率を示している。変化率が増加（1.00より大きい）、変化なし（1.00）、減少（0.50以上1.00未満）、大きく減少（0.50未満）の4段階で色分けして表示した。人口動態は地区別に異なっており、町内一律に同じ対策を講じても効果が一定ではないことを示唆している。それぞれの地区に適した独自の対策を設計し実行する必要性が伺える。

次に人口増減率（2016～2021年）、高齢化率（2021年）、社会増減率（2016～2021年）、4歳以下増減率（2016～2021年）、小学生増減率（2016～2021年）、30代女性コーホート増減率（2016～2021年）、人口増減率予測（2021～2051年）、2051年に人口安定化を達成するために必要な毎年の定住増加率（2021年人口比%）についての分析結果を図示する。この分析・推計結果を市内全地区が表示された地図上に表現し、結果の評価については良い場合は淡色、思わしくない場合は濃色（白色～黒色）になるように段階的に表示している。

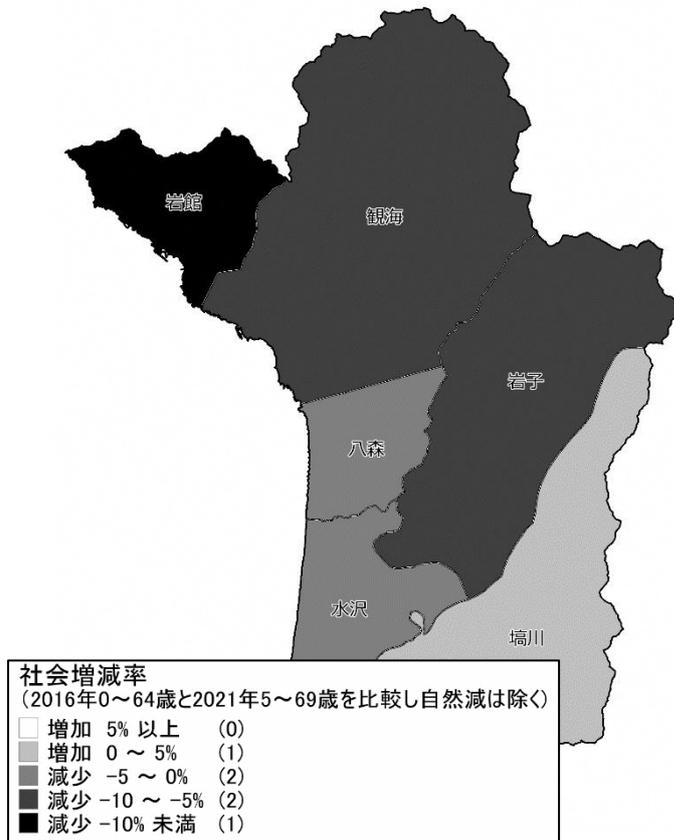
■人口増減率（2016～2021年）



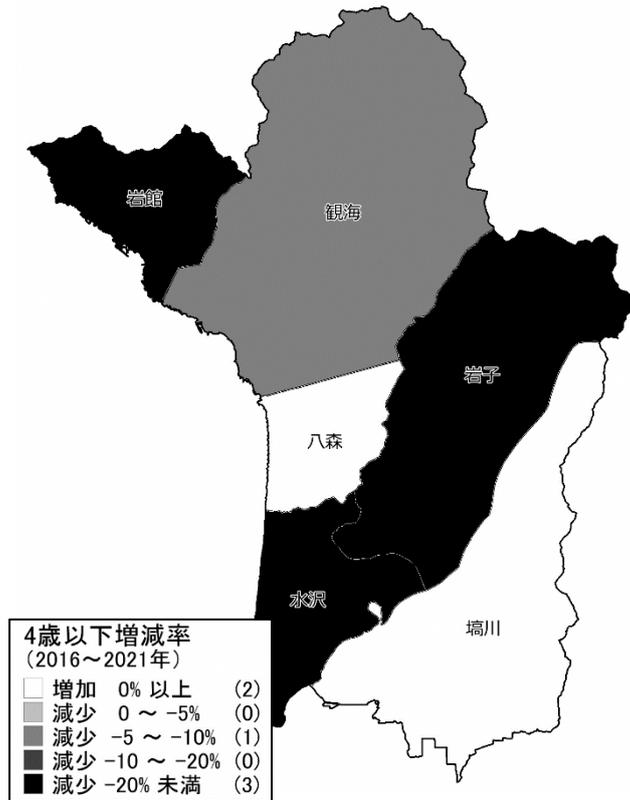
■高齢化率（2021年）



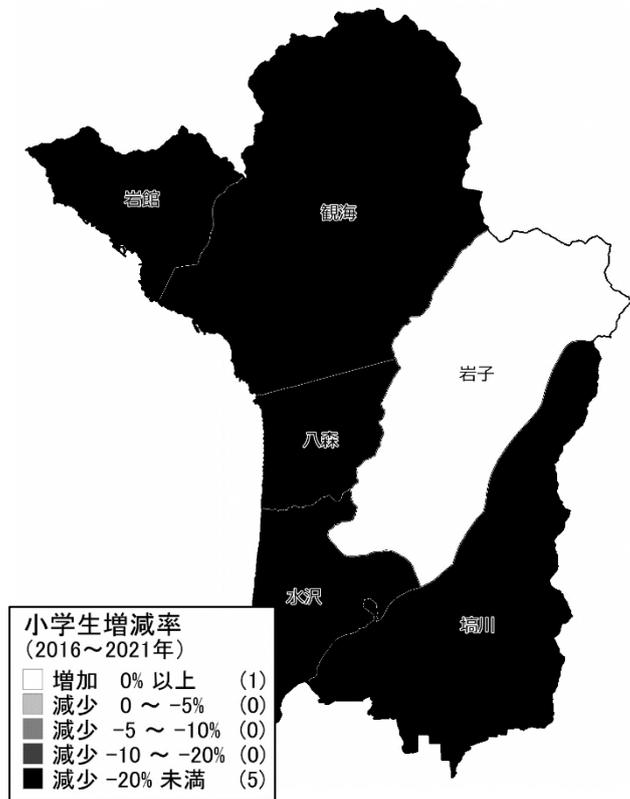
■社会増減率（2016～2021年）



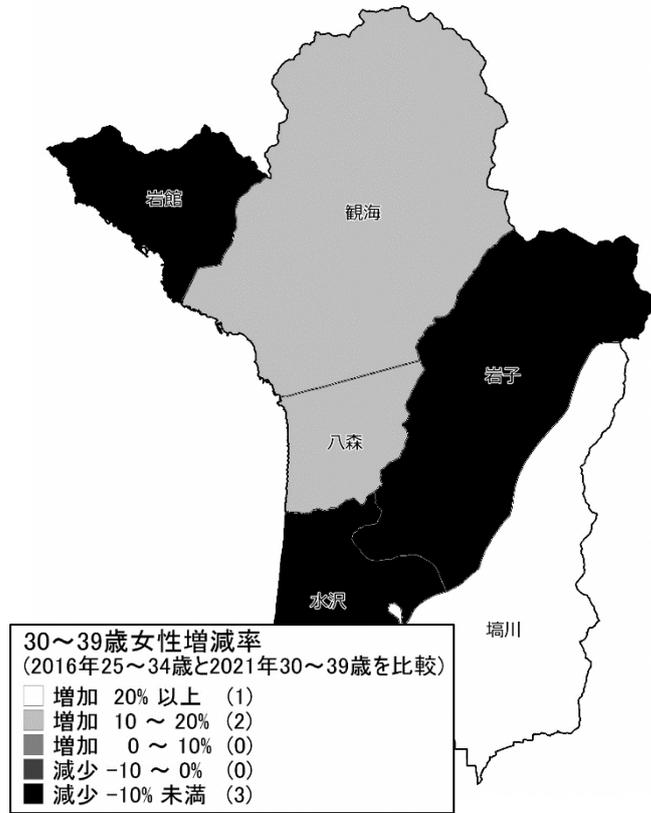
■ 4歳以下増減率（2016～2021年）



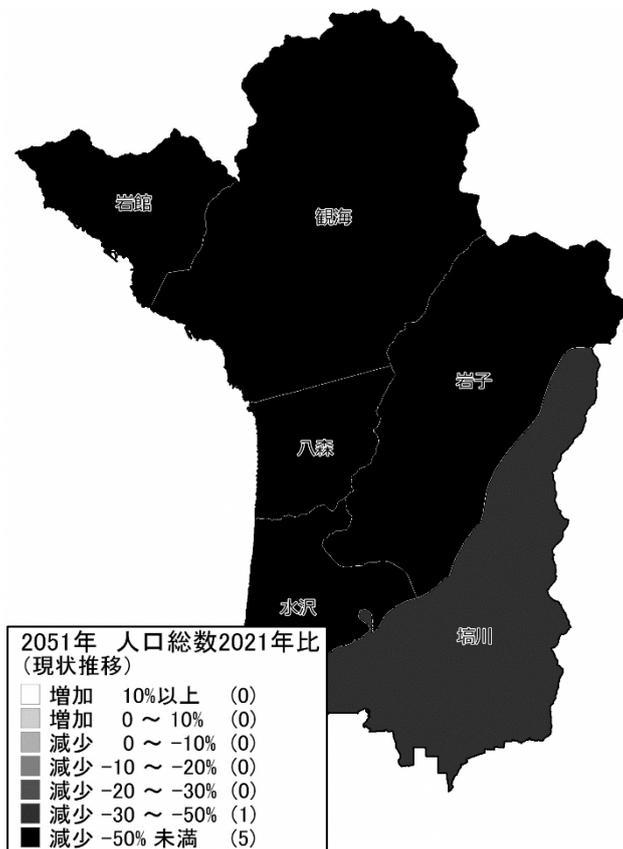
■ 小学生増減率（2016～2021年）



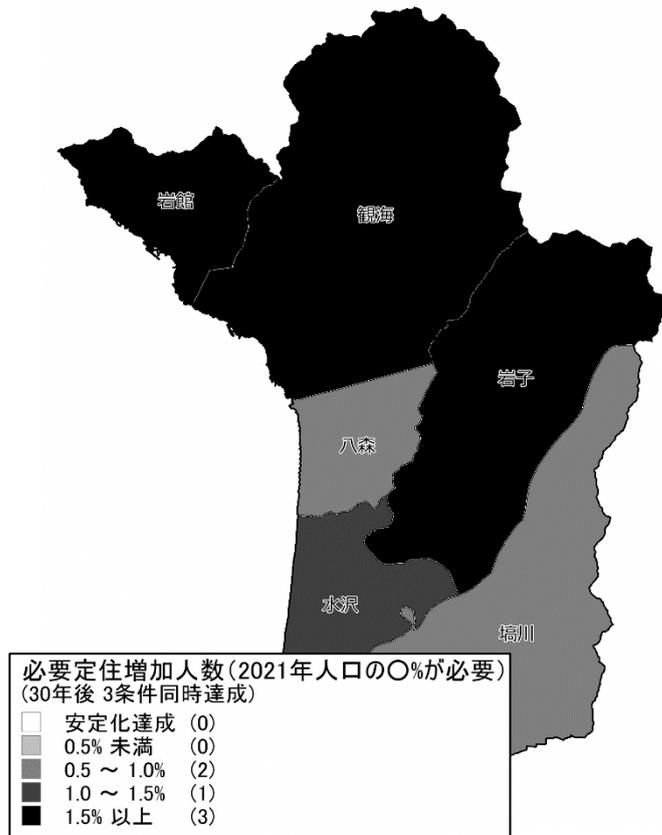
■30代女性コーホート増減率（2016～2021年）



■人口増減率予測（2021～2051年）



■ 2051年に人口安定化を達成するために必要な毎年の定住増加率（2021年人口比%）



④ モデル地区（八峰町岩館地区）の概要

次にモデル地区の概要を記載する。八峰町は2006年に当時の八森町と峰浜村が合併し誕生した町で6地区から構成されている。その中の岩館地区をモデル地区として本事業を実施した。岩館地区は2021年12月時点で人口680人、309世帯、高齢化率52.6%、旧八森町に位置し、岩館第一、岩館第二、小入川の3自治会から構成されている。2009年3月に閉校した岩館小学校は、この3自治会を学区としていたため住民同士はPTA等を通じたつながりが、かつては密接にあったようである。神明社の祭典や鹿島祭り、自治会合同役員会等、自治会の枠を越えて行う行事もあるが、基本的には自治会ごとのまとまりでサロンや防災訓練等の様々な活動が行われている。これまでに連合自治会等の岩館地区単位での自治組織が存在したことはない。岩館地区では、現在、地区全体の拠点施設と成り得る「岩館地区防災コミュニティセンター」が2023年10月の完成を目指して計画が進行している最中である。

また、特筆すべきこととして、産業に関わることでは岩館港はハタハタの水揚げでも有名で女性で構成されている「ひより会」はそのハタハタを利用した特産品の製造・販売を行っている。また、インターネットを通じた販売を手掛ける若手漁師による団体「fish door」や新たにサーモン養殖を行う「八水」という株式会社も立ち上がり漁業関係では注

目されている地区である。その他には岩館地区単位の取組として岩館下浜海岸組合を中心に、県内外からの海水浴客が訪れる岩館海浜プールの整備、運営も行われている。また、自然や景観にも優れており、海岸は八森岩館県立自然公園に指定され、第二小入川橋梁は小入川鉄橋（五能線）のフォトスポットとしてカメラ愛好家の中では有名な場所である。その他、地区内の団体や組織に関してはヒアリング調査から作成した地元関係図にまとめたので参照いただきたい。



岩館海浜プールの清掃活動



防災訓練の様子



小入川鉄橋を望む風景

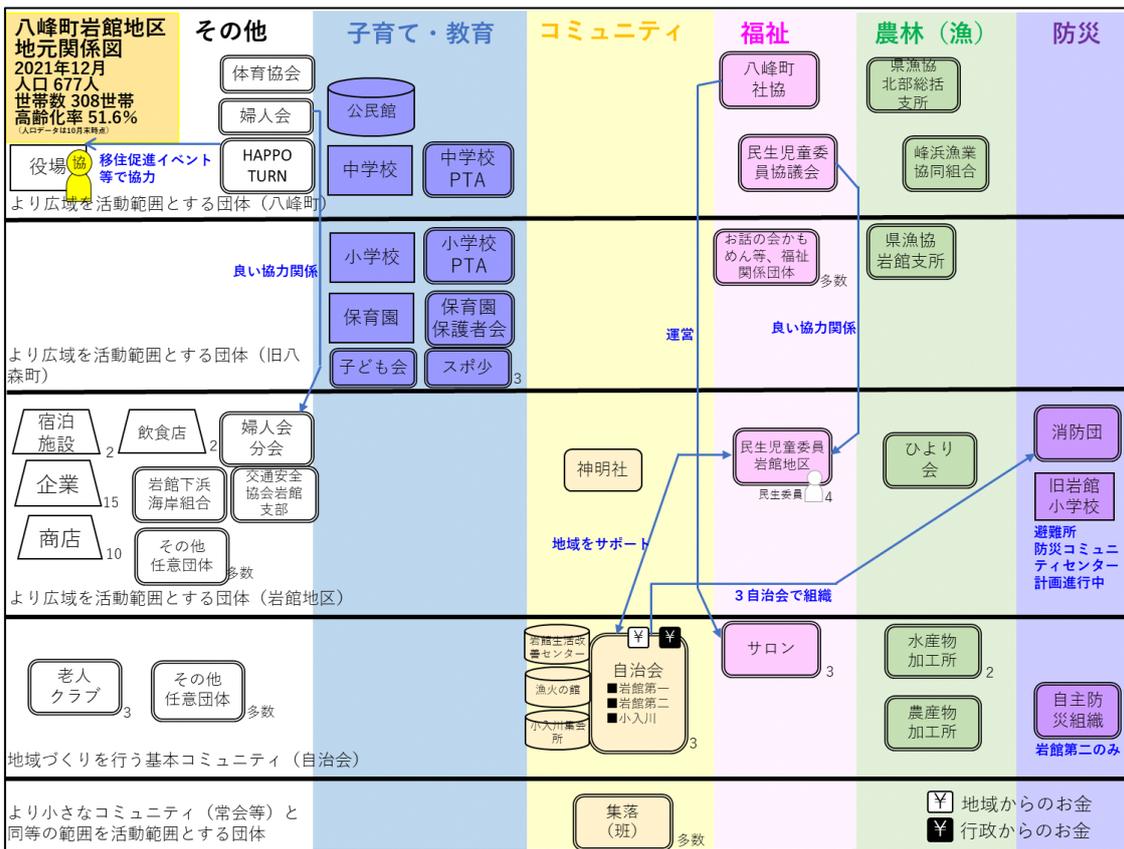


図 岩館地区の地元関係図

注：□の¥は地域住民から集めたお金、■の¥は行政からの交付金・補助金を表現。

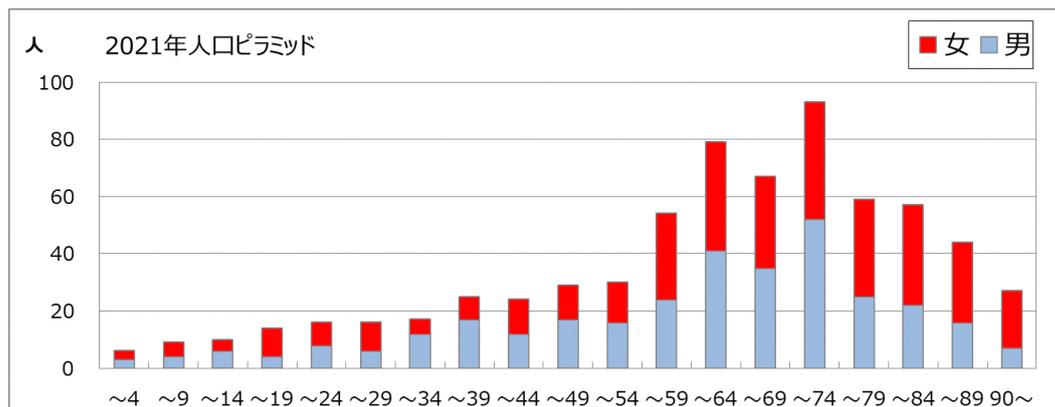
⑤ 人口分析・推計（八峰町岩館地区）

八峰町全体での人口の現状分析、パターン別人口推計シミュレーションと同様の分析と検討を岩館地区においても行った。

1) 現状分析（2016～2021年）

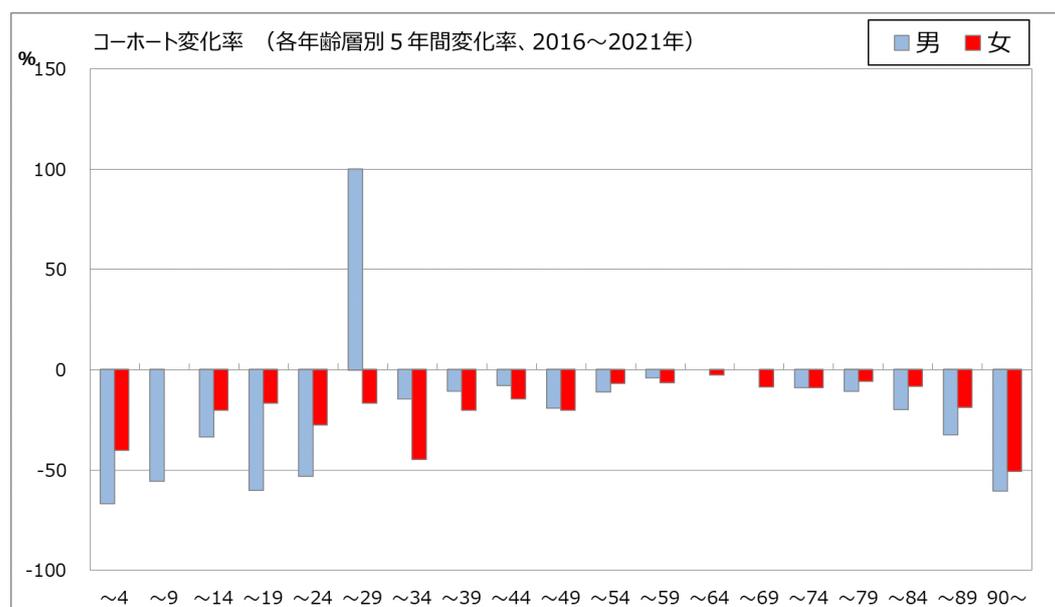
岩館地区における人口構成、過去5年間（2016～2021年）の人口動態の推移を示す。

i. 年代別人口構成



地区住民 676 人の内、最多は 70 代前半の 93 人、最少は 0～4 歳の 6 人となっている。50 代前半以下の各年代層は最も人数の多い 70 代前半の年代層の 3 割にも満たない人数となっている。また、30 代前半～40 代後半までの主に子育て世代が多く含まれる年代層では比較的、女性割合が低くなっており、子どもの人数の少なさに関係しているものと思われる。今後の地域活動の継続が危ぶまれるほどに若い年代が少ない人口構成となっている。

ii. 年代別コーホート変化率



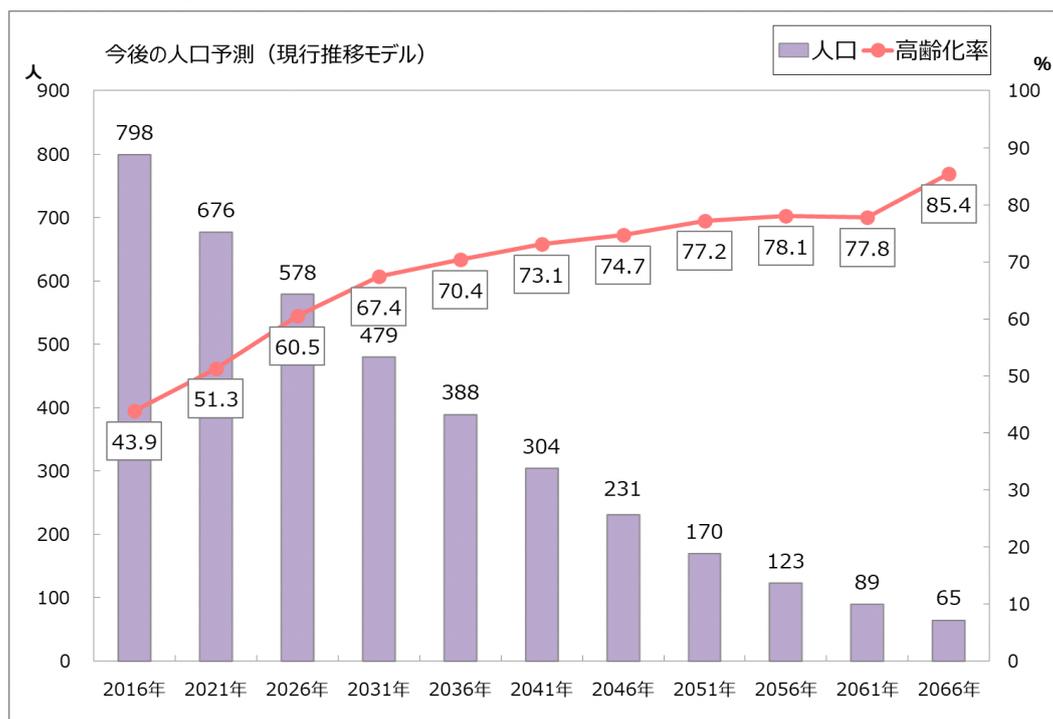
20 代前半男性が 3 人から 6 人へ倍増しているものの、一桁年代～20 代前半までの各年

代層の男性はほとんどが50%以上、実数にして3～9人の減少を続けている。また、女性に関してほとんどの年代層で減少しており、全体的には人口の取り戻しは困難な状況にある

2) 現状推移シナリオ

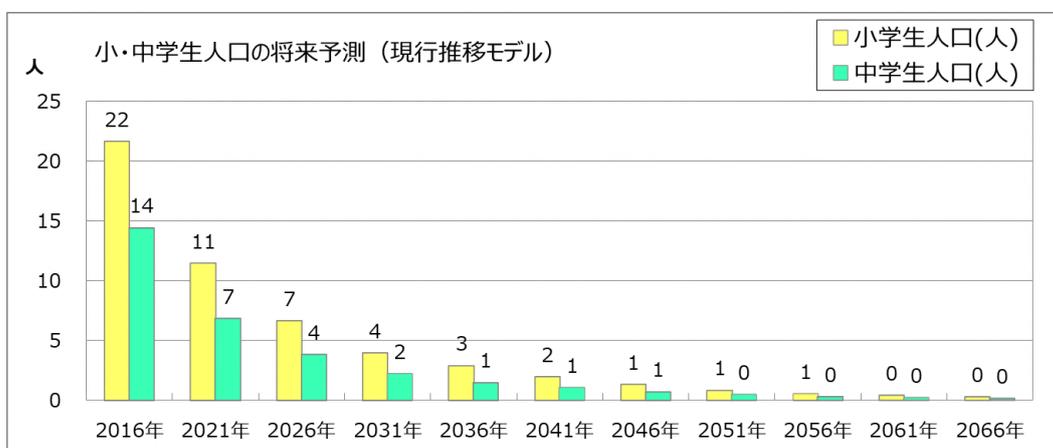
岩館地区における過去5年間（2016～2021年）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討していく。

i. 人口と高齢化率予測



八峰町全体と比較すると人口減少の割合と高齢化率の高まりは一層、厳しいものとなることが予測される。人口は2021年比で20年後の2041年には半減以上の45.0%、45年後の2066年には9.6%まで減少すると推計されている。

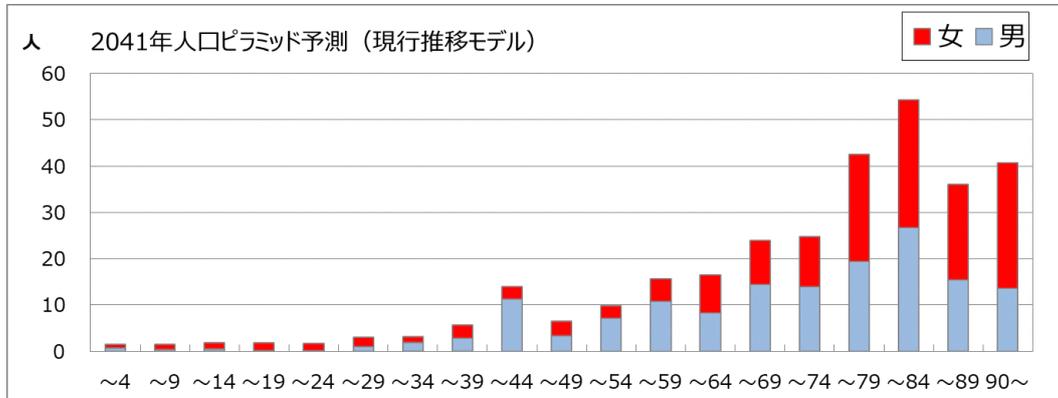
ii. 小・中学生数予測



小・中学生数も著しい減少となり、その減少幅は岩館地区の全人口と比べても非常に大

きいものとなる。2021年比で20年後の2041年には16.7%（3人）、40年後の2061年以降は0人と推計されている。

iii. 2041年（20年後）の年代別人口構成



ピークが80代前半に推移し54人となっている。岩館地区では30代前半～70代前半の各年代層において一貫して女性割合が低くなると推計されている。これが各年代層における子ども人口の減少に関与し、人口構成全体の減少傾向を加速させていると推測出来る。

3) 人口安定化シナリオ

八峰町全体での検討と同様に岩館地区においても人口安定化シナリオを検討する。この検討には合計特殊出生率、10代後半の流出率、定住増加数の3つの要素を組み合わせる。

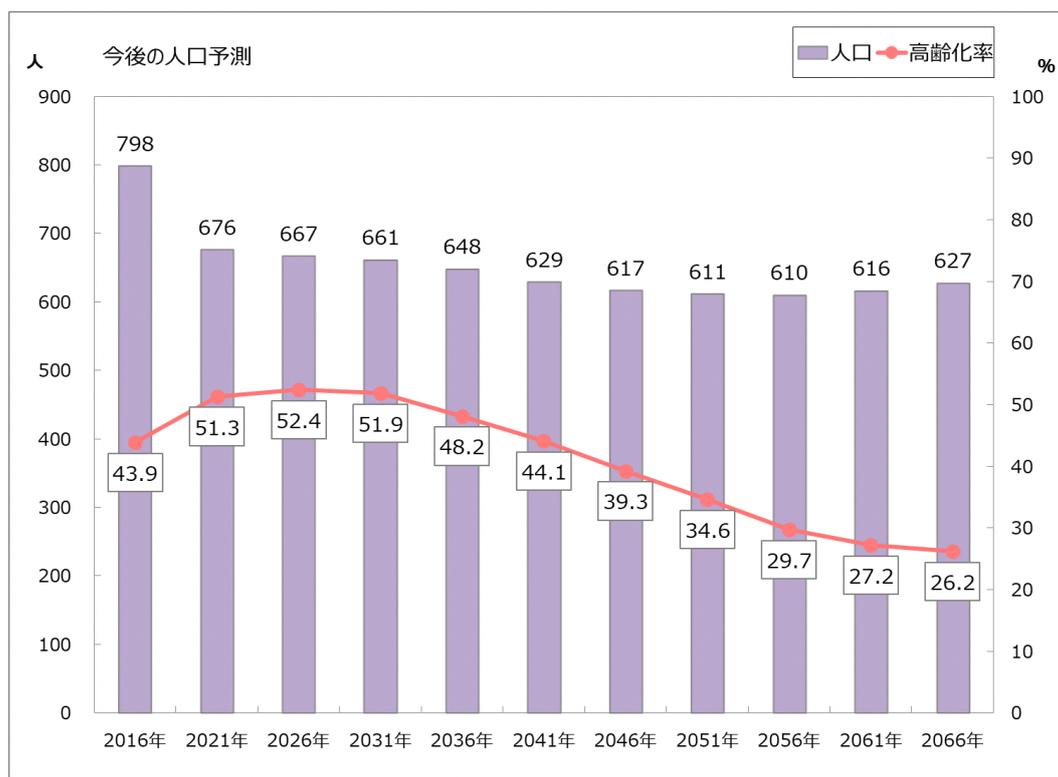
今回の組み合わせでは、出生率は2015年に策定された八峰町人口ビジョンの推計に準じて2041年には1.94、2046年以降は2.07へと段階的に上昇させる設定とした。10代後半の流出率は現状の半分となるように設定した（詳細は参考資料に記載）。10代後半の流出率を半分に抑制するという仮定は現実には多くの困難が予想される。しかしながら、この部分を具体的に検討する端緒となることを期待しこの設定とした。定住増加数の対象は20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代として毎年各2.1組、14.7人（岩館地区の2021年人口の2.17%）の誘致数とした。以上の条件設定で、出生率、流出率、定住増加数の3要素を組み合わせた人口安定化シナリオを検討する（下表参照）。

表 人口安定化シナリオの設定数値

合計特殊出生率（%）	10代後半流出率（%）		定住増加数・率/年	
	現状	設定値	各世代（世帯）	
2021～2026年	1.52		各世代（世帯）	2.1
2026～2031年	1.63	男性 53	合計世帯数（世帯）	6.3
2031～2036年	1.73	女性 27	合計人数（人）	14.7
2036～2041年	1.83		2021年人口比（%）	2.17
2041～2046年	1.94			
2046年以降	2.07			

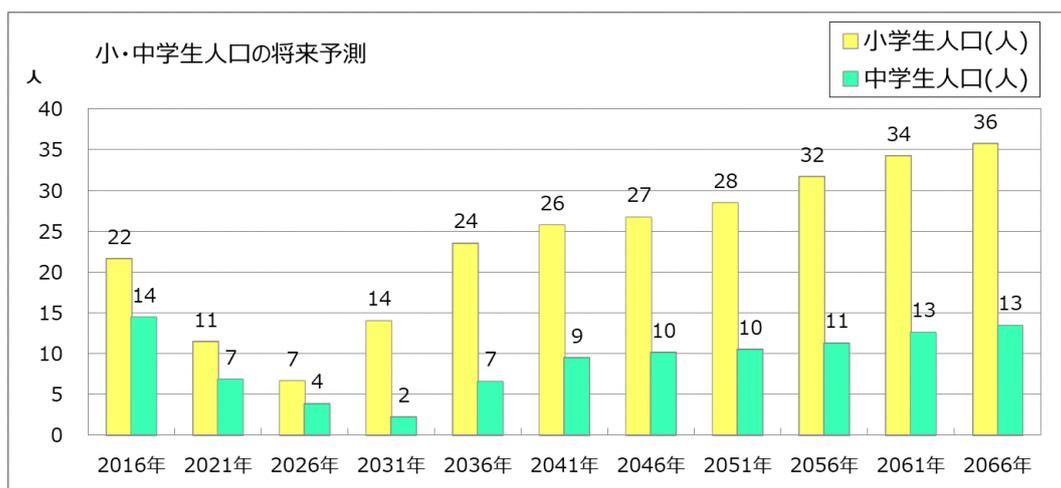
注：20代前半夫婦は1組（世帯）2人、30代前半子連れ夫婦は1組（世帯）3人、60代前半夫婦は1組（世帯）2人と設定。

i. 人口と高齢化予測



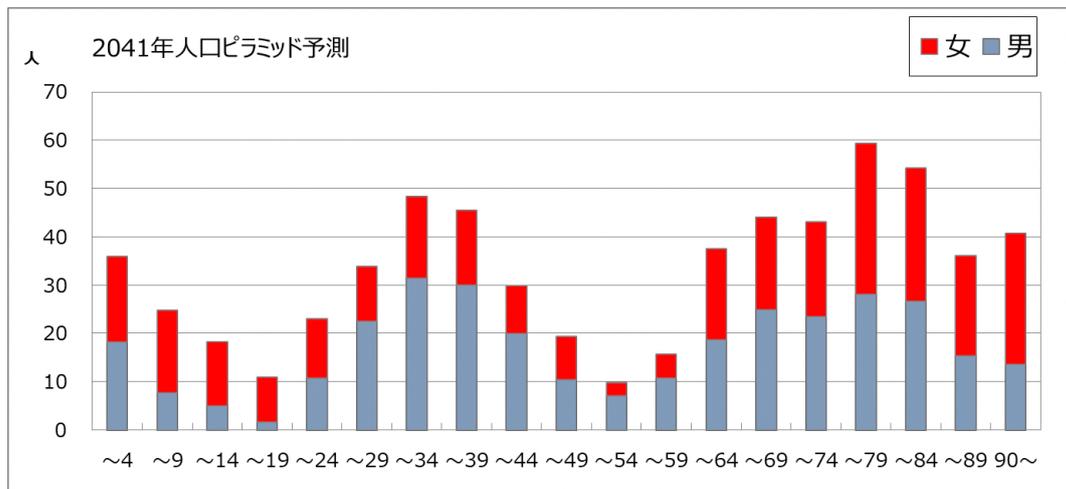
2021年人口の2.17%に相当する人数を毎年、呼び込むことが出来れば、人口総数、高齢化率とも、長期にわたり安定化が達成される。

ii. 小・中学生数予測



現行のまま推移した場合、激減が予測された小・中学生数も子育て夫婦や若者夫婦の継続的な定住が達成されると、2031年頃からは増加に転じるものと推計される。

iii. 2041年（20年後）の年代別人口構成



20年後であっても誘致目標とした年代の影響をそれほど受けない年代層は極端に人数が少なくなっているが、30代や0～4歳の年代層にもピークのある人口構成になると推計される。20年後より先には各年代層にさらに厚みが出てくるものと思われる。

⑥ ワークショップ（1回目）（人口安定化ワークショップ）

1) 目的

本業務の目的でもある具体的な定住促進策の検討には住民の参加が求められる。当ワークショップでは、住民の方々に地域の人口動態を再確認いただき、移住者がどのくらい増えれば地域の人口はどのように変化するのか具体的にシミュレーションいただいた。その上で目標とすべき移住者誘致数や地域人口の安定化を検討することを目的として行った。

2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2021年10月20日（水）19：00－21：00
- ・場所 岩館生活改善センター
- ・参加者 地域住民（14名）、八峰町職員、秋田県職員等A～Cの3班

■実施・作業内容

- ・一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所の藤山氏による当日の作業内容等の概要説明
- ・人口動態の増減要因分析として自らの地区の2016年から2021年の各年代、男女別の人口動態（コーホート変化率）を確認し、その増減要因を分析
- ・人口推計シミュレーションプログラムを実際に体験し、人口安定化に向けた具体的な移住者数（人口安定化シナリオ）の検討

■当日の様子



3) 人口動態の増減要因分析

この作業では参加者に対して岩館地区の年代別コーホート変化率のグラフを提示しながら、各年代の増減要因を検討いただいた。各班の検討結果の要約・抜粋が次頁表である。

表 岩館地区における人口増減要因分析結果の要約・抜粋

年齢	人口増加要因	人口減少要因
0～4		孫の世話を祖父母が見れるかがポイント 保育所がない
5～9		通勤、通学、買い物等、親と便利な土地へ 親の離婚に伴い転出
10～14		通勤、通学、買い物等、親と便利な土地へ 親の離婚に伴い転出
15～19		進学時は住民票を移さないが、就職時に転出
20～24	親の面倒を見に戻って来た 親と同居で3食出る	進学時は住民票を移さないが、就職時に転出
25～29	会社の跡継ぎ かもめ団地の入居者 職場が岩館になった（漁師）	親と同居が嫌で独身でも能代市のアパートへ 離婚して転出
30～34	都会に疲れて実家に戻って来た	通勤、通学、買い物等便利な土地へ 離婚して転出 結婚（女性）
35～39	会社を辞めて実家に戻って来た	子どもの部活で出て行く（岩館→八森）生活圏から遠いから
40～44	空き家改修し移住	通勤等、利便性の面で能代に家を建てる
45～49		
50～54		
55～59		
60～64		
65～		町外の子どものところへ 施設入所

岩館地区の人口分析・推計では子育て世代の女性割合が少ない傾向が見られたが、この要因分析では「結婚（女性）」という減少要因以外には女性特有の要因は挙げられなかった。子育て世代全般を見ると通勤、通学の利便性を求めている転出という減少要因が挙げられた。20代前半男性の増加については、会社の後継者として、あるいは漁師になるためという就労に伴う要因やかもめ団地の入居者という要因が挙げられた。全体的には減少要因が多く挙げられる中で増加要因の意見は少なく、住民の方々も地区人口の減少については実感を伴っているものと思われた。

4) 人口安定化のシナリオづくり

次に人口推計シミュレーションプログラムを使用し 20 代前半夫婦、30 代前半子連れ夫婦、60 代前半夫婦の 3 世代の目標誘致数を検討いただいた。その際、実際に達成したい現実版の目標と、可能ならばこれくらい来て欲しいという理想版の目標を立てていただいた（下表参照）。なお 10 代後半流出率抑制目標については現在の男性 53%、女性 27%をそれぞれ半分の 26%、14%に設定した。合計特殊出生率については現在の 0.77 から 2046 年までに段階的に 1.80 へ上昇するよう設定した。人口安定化をより身近に感じていただくために、「⑤-3) 人口安定化シナリオ」で設定した数値と比べて合計特殊出生率はより緩やかな数値目標となるようにした。

表 岩館地区における検討された人口安定化シナリオ

項目	班	A	B	C	単位
		誘致世帯数・人数/年 目標			
20代前半夫婦	現実版	1	0.5	1	組
	理想版	3	2	2	
30代前半子連れ夫婦	現実版	0.5	0.5	0.5	
	理想版	2	1	2	
60代前半夫婦	現実版	1	1	2	
	理想版	2	2	4	
合計人数	現実版	5.5	4.5	7.5	人
	理想版	16	11	18	

前節「3) 人口安定化シナリオ」で示したとおり、人口安定化の目安となる数値として各世帯 2.1 組、14.7 人の誘致が必要となるが、各班でシミュレーションした結果、現実版ではその 3～5 割程度の誘致人数に落ち着いている。特に 20 代前半夫婦や 30 代前半子連れ夫婦は 0.5～1 組の誘致目標としており、若年層の取り戻しは容易には出来ないという観念が根底にあることが伺える。しかし、理想版では各班とも「あくまでも理想だが」としつつも 11～16 人という人口安定化が達成されるような前向きな目標を設定していた。

具体的な検討結果を 1 つ紹介すると、A 班の現実版としては次に示したとおりとなる。20 代前半夫婦を 1 組、30 代前半子連れ夫婦を 0.5 組、60 代前半夫婦を 1 組ずつ毎年迎え入れると、人口は 2066 年頃には 2021 年比で約半数に落ち込み、人口安定化はその時点でも見えてこないが、小・中学生数は 2036 年頃からは 2021 年比で 8 割前後に安定する結果となった。したがって、高齢化率も 2041 年頃をピークにその後は減少傾向となった。

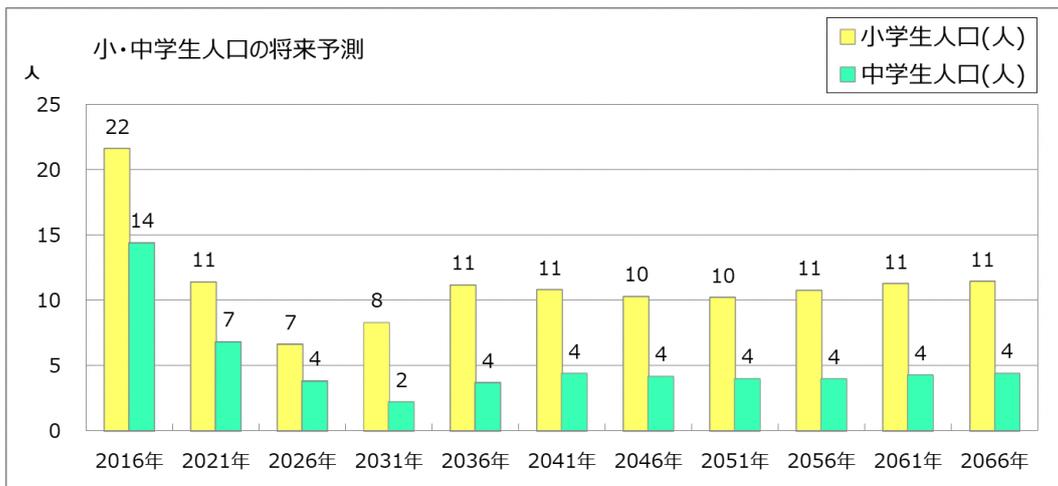
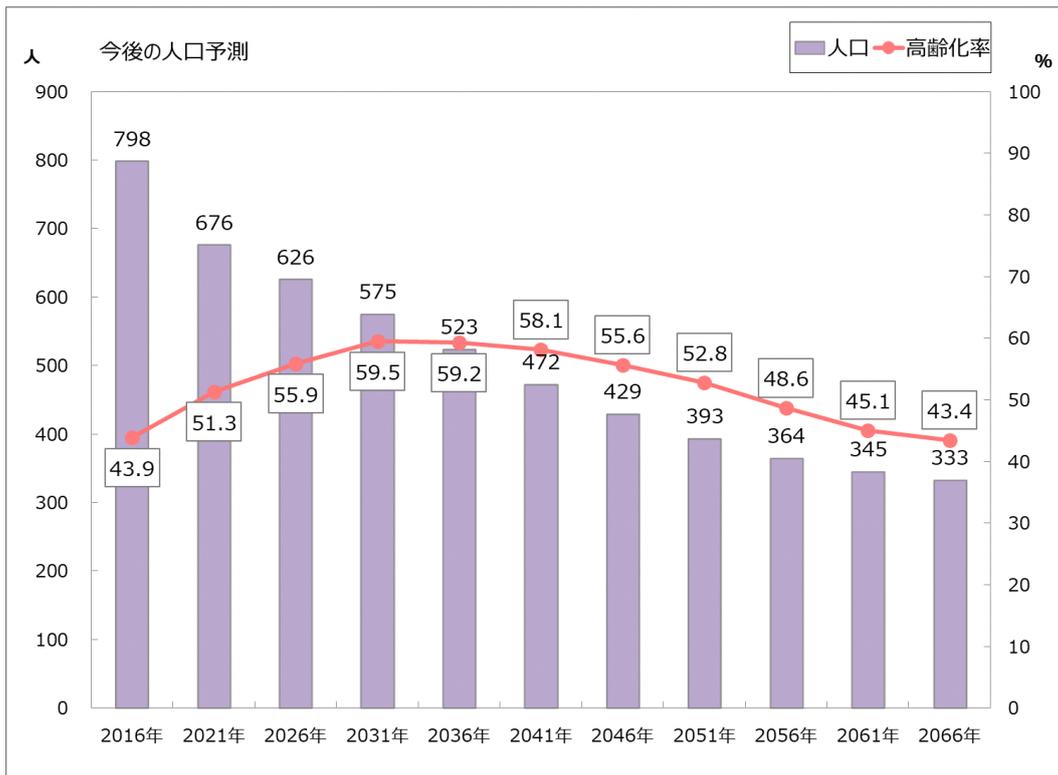


図 岩館地区 A 班現実版の検討結果 人口と高齢化予測（上）と小・中学生数予測（下）

5) まとめ

ワークショップでは地域の人口動態を今一度、確認する機会として最新情報を提供したことにより、現状のまま人口減少が進むと地域の人口がどうになってしまうのか参加された方々は視覚的に理解することが出来たと思われる。また、人口安定化シナリオ作りのシミュレーション作業では数値を入れ替える都度、結果も変わるので様々な数値を試していただくことが出来た。その結果、現実版の目標数値では容易に人口減少は止まらないということを実感いただけたのではないかと。こうした意識を共有出来たことも本ワークショップの成果であった。

⑦ ワークショップ（2回目）（地元天気図ワークショップ）

1) 目的

ワークショップ（1回目）を受けて、このワークショップでは地元関係図を基に地域の現状と定住促進を可能とする将来像について検討を行った。地域の行動計画（グランドデザイン）策定の一助、あるいは地域の拠点づくりや実際に移住者を呼び込むという動きを生み出す端緒となることを念頭に置いている。実施地域における今後の検討材料として活用いただきたい。

2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2021年12月1日（水）19：00－21：00
- ・場所 岩館生活改善センター
- ・参加者 地域住民（11名）、八峰町職員、秋田県職員等A～Cの3班

■実施・作業内容

- ・一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所の藤山氏による当日の作業内容等の概要説明
- ・地元天気図ワークショップとして前半（課題編）と後半（解決編）の地元天気図の作成と地域の定住促進策の検討（テーマは30代女性が定住するとしたら）
前半は地域の現状や課題を確認するため、施設、組織等について強みや弱み、関係性を検討し現時点での地元天気図を作成
後半は前半で確認した地元天気図にどのような要素が加われば、30代女性が移住・定住しやすくなるのかを検討し将来展望を加味した地元天気図を作成

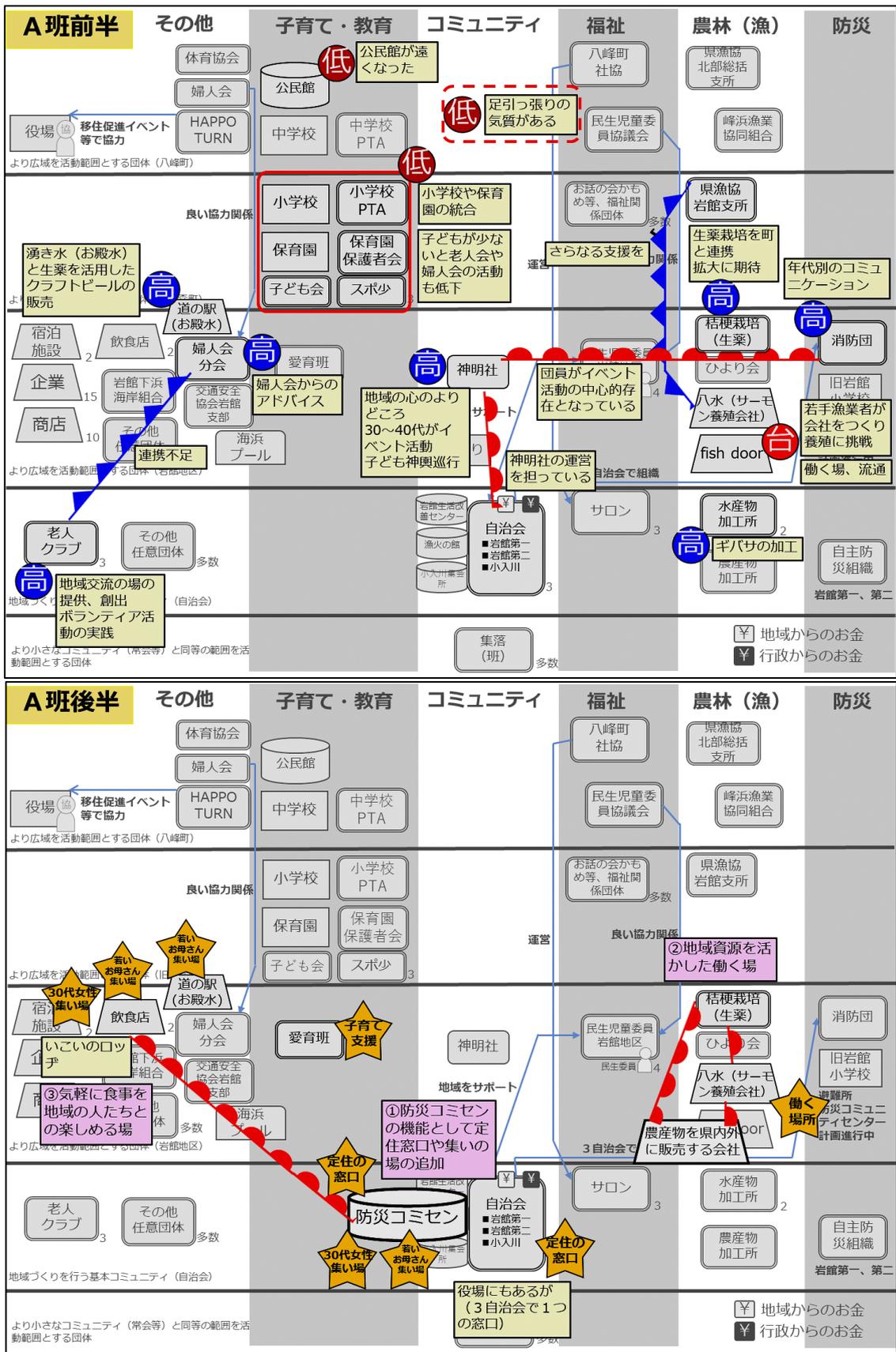
■当日の様子



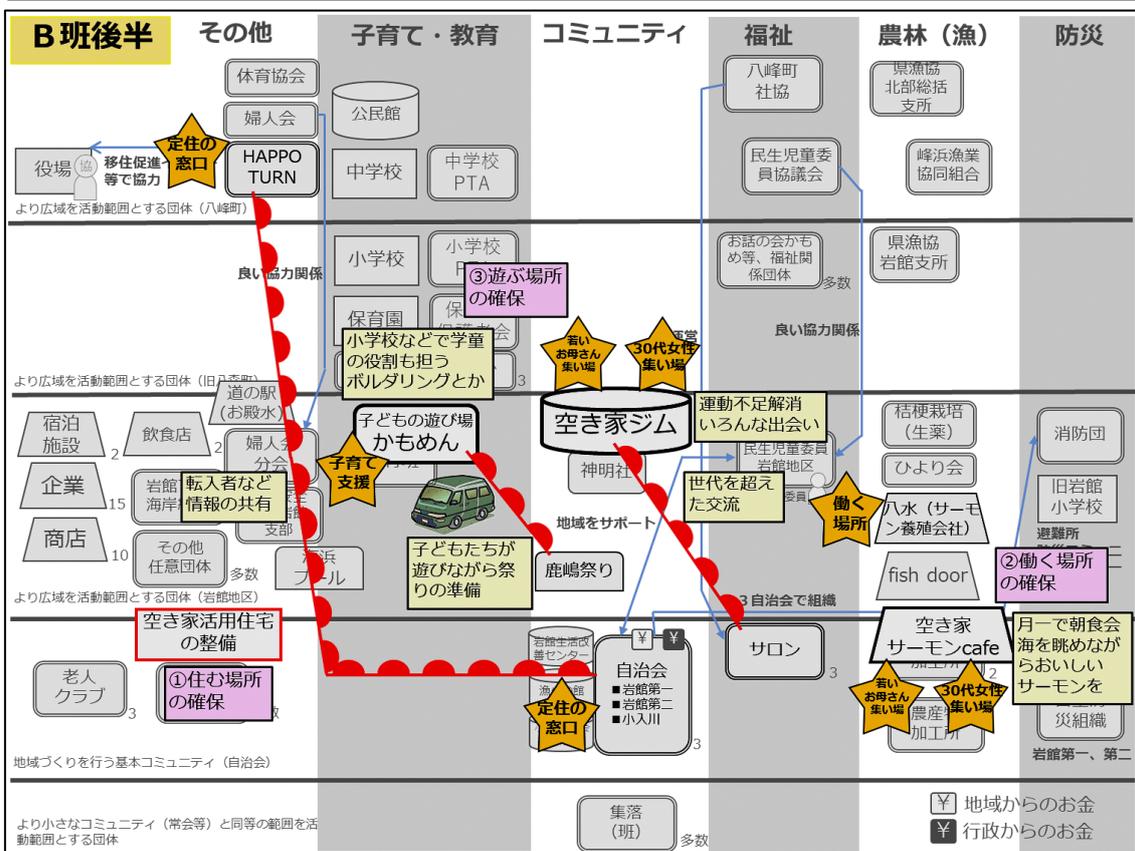
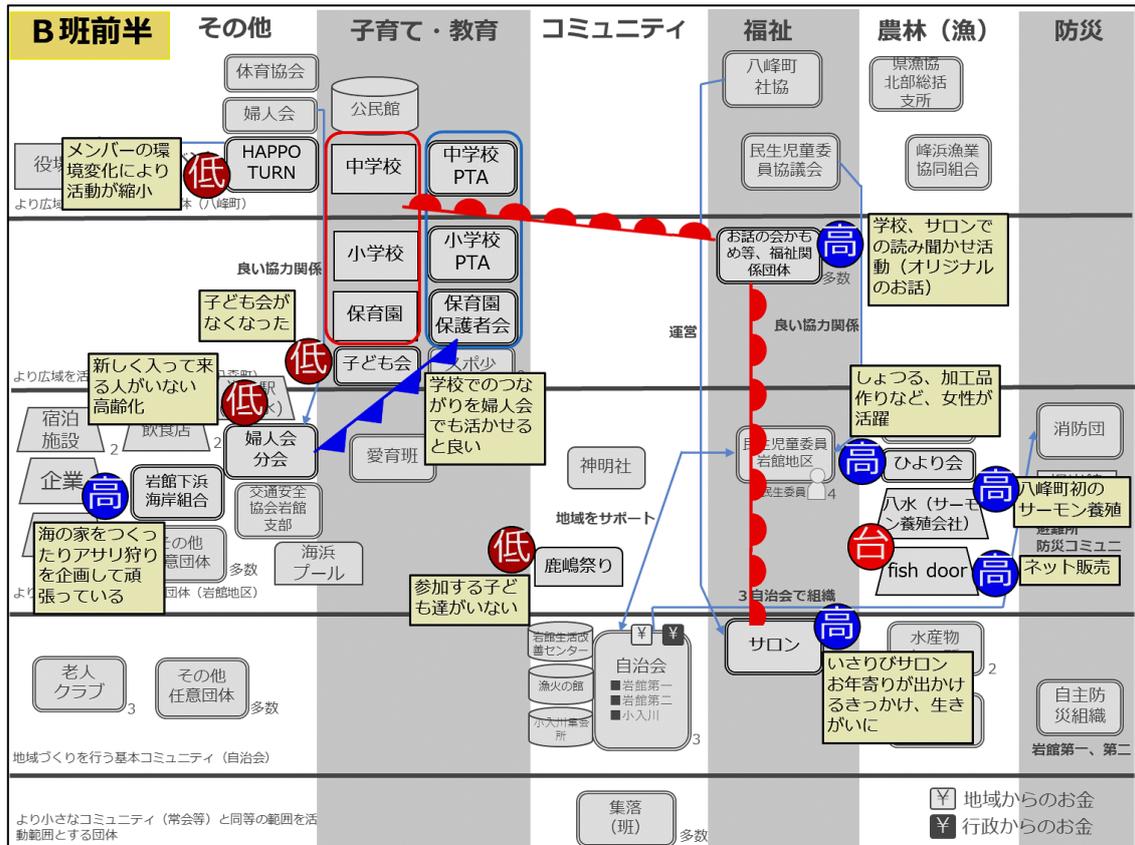
3) 検討結果

岩館地区では3班構成で作業が行われた。その中の例としてベテラン男性がメンバーの大半であったA班と全メンバーが女性で構成されたB班の検討結果を表示する（「④モデル地区（八峰町岩館地区）の概要」に掲載した地元関係図と併せてご覧いただきたい）。

A班の地元天気図（上前半・下後半）



B班の地元天気図 (上半・下半)



4) まとめ

地元天気図を提示した A 班と B 班について概略を記載したい。

A 班はベテラン男性を中心に構成された班である。前半の検討では公民館が地域から遠くなったこと、小学校や保育園が統廃合等により地域から無くなったことにより世代間の連携不足が生じている状況に低気圧マークが付けられた。また、婦人会と老人クラブの連携不足が指摘された。高気圧としては神明社の活動に消防団が熱心であることが挙げられた。台風にも高気圧にも成り得るものとしては「八水（サーモン養殖会社）」が挙げられ、皆で見守って育てていくなかで、「県漁協岩館支所」がもう少しサポートしてはどうかとの意見があった。また、生薬栽培やクラフトビールに特産品としての可能性も見出している。

後半の検討では、「岩館地区防災コミュニティセンター」を地域の核として建物のスペースを有効活用し、女性が集う場を作ることとした。また岩館地区としての定住窓口を設置し、町の移住・定住担当と連携を深めていけたら良いのではないかと、との意見もあった。次にサーモン養殖等、地域の売れるもの（特産品）を生産し販売強化をしていくことで働く場も増えていくということと、「いこいのロッヂ」にも女性の集う場を作ったらどうかという意見が出された。

B 班は女性が中心の班である。A 班同様に「八水（サーモン養殖会社）」とそれに加えて魚のインターネット販売にも注力している漁師団体の「fish door」を高く評価しており、台風の日になるような活躍をするのではないかと考えている。子どもが少なくなり自治会と学校が協力して行っていた行事が無くなったこと、婦人会などの地域にある組織の会員の高齢化も進んでいることには低気圧マークが付けられている。子どもたちとの関りを増やせるように保護者会や P T A と婦人会がより関係を深めていけたらと考えている。一方で女性が中心の読み聞かせの団体である「かもめ」は小学校やサロンに精力的に出向いて活動しており、つながりを大事にしていると感じている。また、サロン活動そのものも高齢者の生きがいや出かけるきっかけになっていると評価している。

後半では八峰町の移住・定住施策をサポートしているまちづくり団体の「HAPPO TURN」と連携を強化し定住を推進したいとした。次に子どもの遊び場として小学校の廃校舎を利用し学童保育の機能も担える場を作りたいと考えている。また空き家の活用としてスポーツジムを開設することで健康増進と出会いの場、あるいはサロン機能も付加出来ればという検討がなされた。働く場の確保にはやはり養殖サーモンの利用に可能性があり、考案した名物料理をカフェで提供し、地域内向けに月に一回の朝食会等を開催したいとした。また、そのカフェは女性の集う場にしたいとの考えであった。

掲載していないが C 班についても簡単に記載する。前半については概ね同様の検討がなされ「八水（サーモン養殖会社）」への高まる期待感と小・中学校と自治会には物理的にも心情的にも距離感があるということであった。しかし、老人クラブやサロンは自治会と昔ながらのつながりが残っていて良く連携しているという意見であった。

後半では自治会での若手の活動強化を狙い、その活動が地域内に浸透することで「岩館

地区防災コミュニティセンター」等も自ずと集まる場として機能していくのではないかという意見が発表された。

⑧ 八峰町報告会の開催概要

1) 目的

コミュニティ生活圏形成事業の概要と岩館地区での取組の成果を基に、手法や手応えを八峰町全体に発信・共有する目的で行われた。

2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2022年3月6日(日) 9:30-11:30
- ・場所 八峰町文化交流センター ファガス
- ・参加 50名

■次第

第一部 講演 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所
所長 藤山 浩 氏

2020年代は田園回帰の時代

～八峰町の地区別人口予測の概要と全国的な先進事例の紹介～

第二部 パネルディスカッション

コミュニティ生活圏の形成に向けて

～今こそ定住と暮らしの土俵をつくる！～

コーディネーター 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所
所長 藤山 浩 氏

(1) 岩館地区からの取組報告

報告者 岩館地区 須藤 徳雄 氏
岩館地区 大森 聖子 氏

(2) パネルディスカッション

次世代の定住増加への課題や手法、そして地元での暮らしを支える仕組等について

テーマ1 次世代の定住増加の一番課題となっていること

テーマ2 次世代の定住増加に向けて一番力を入れたいこと

テーマ3 集落内外の団体や、子育て、福祉、農林分野などをつないでこんな仕組みをつくりたい

まとめ 今後に向けての抱負を漢字一文字で

岩館地区 須藤 徳雄 氏

岩館地区 大森 聖子 氏

八峰町 地域おこし協力隊 吉田 真己 氏

八峰町企画財政課 本庄 恭介 氏

■当日の様子



3) 内容紹介

本報告会では一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所所長 藤山浩 氏より本事業に関連して「2020年代は田園回帰の時代」という演題で講演いただいた。その後、ワークショップ参加者に成果を発表いただいた。パネルディスカッションでは地元住民等、4名の方々に登壇いただき与えられたテーマに対してキーワードを回答し、その意味するところを説明いただく形式で執り行った。このパネルディスカッションの内容について抜粋し要約する。

テーマ1 次世代の定住増加の一番課題となっていること

吉田氏キーワード 「ネガティブ思考」

「ここには誰も来ない」という考えの住民が多い。課題を認識しているから、そう思うのだと感じている。課題解決の努力をして地元自信を持って欲しい。

本庄氏キーワード 「魅力・情報の発信」

自然豊かな土地への移住・定住希望者が増えてきているが、地域の魅力や情報の発信が不足している。ここを改善することで人を呼び込んでいきたい。

テーマ2 次世代の定住増加に向けて一番力を入れたいこと

須藤氏キーワード 「人材・人財・人在・人罪」

地域のために人材として役立つことが大事で、さらに輝くほど活躍するのが人財、ただいるだけの人が人在、そして足を引っ張るのが人罪。高齢になると人罪が多くなるので、そうならないように若者に協力することが大事。

大森氏キーワード 「メリットを打ち出す」

移住希望者に金銭的なことや防災的なこと地域特有のこと等、目に見えるメリットを示してあげることで岩館を選んでもらい易くしていきたい（して欲しい）。

テーマ3 集落内外の団体や、子育て、福祉、農林分野などをつないでこんな仕組みをつくりたい

須藤氏キーワード 「岩館地区活性化協議会」

この取組で開催されたワークショップのように若い世代と意見交換する機会がとても貴重に感じられた。気軽に集まれる会があれば良いと思う。

吉田氏キーワード 「世代を超えた繋がり」

同世代のつながりはとても強い地域だが、世代間のつながりが弱いと感じている。世代によって考えに違いがあり、それぞれの考えを共有出来る機会を作っていけたらと思っている。

まとめ 今後に向けての抱負を漢字一文字で

大森氏キーワード 「明」

この取組が地域住民を明るく照らすような結果をもたらすようにしていきたい。そして、明るい兆しを作れたらいいなと思っている。

⑨ まとめ（成果と委託機関による方向性の提示）

岩館地区は現状では各自治会の人口減少に伴う弱体化は進行してはいるものの、自治会単位での活動は維持されており、地区全体での動きには関心が薄い状態であった。しかし、今回の取組は岩館地区単位を基盤としたコミュニティ生活圏形成を見据えなければならないという機運を高める効果はあったものと思われる。

人口分析では20代後半男性がこの5年間で3人から6人へ倍増するという明るいデータが見られた一方、その他の年代はほとんどが減少している。また、将来人口の推計では人口減少と高齢化は一層進行し、小・中学生はいずれいなくなるという分析がされ、参加された住民の方々には頭の片隅にはあったものの、どこかで避けていた地域のこれからについて考えるきっかけになったものと思われる。

ワークショップ（1回目）ではベテラン男性、年代混合の女性、若手男性を主なメンバーとした3班で作業を行ったものの、人口増減要因分析では、概ね共通した検討結果であった。減少要因として就学・就職と同時に転出することと、子育て世代では利便性を求めて街中に出てしまうこと等、他地区でも同様に分析される内容が挙げられた。増加要因としては倍増していた20代後半男性に関わることとして、地元での働き口の確保の必要性が伺われた。人口安定化シナリオづくりでは、各班で様々な検討がなされたものの、そこまで隔たった検討結果にはならず、年齢・性別問わず現実・理想版ともに感覚が似通っているものと感じた。今後の取組では住民の方々の情報共有や意識の統一という、まとまる能力も重要になってくるので、その点では良い傾向と捉えられる。

ワークショップ（2回目）では岩館地区の現在と目指したい将来を天気図に描いてもらった。その中で共通した課題認識として保育園や小学校が統廃合により岩館地区から無くなったことによる弊害が挙げられた。自治会活動の中から保育園や小学校と関連する行事の多くが無くなったことは地区住民に大きな喪失感を与えている。こうした交流は自治会の役員世代や老人クラブ、婦人会と子どもの交流機会を奪うだけでなく、子どもの親世代とそれ以外の住民との交流機会も奪うこととなっている。成人以降の大人同士の世代間交

流の促進も課題の1つと想起された。

また、共通して高評価だったのがサーモン養殖を手掛ける「八水」であった。事業の本格化はこれからではあるが、地元の若手が中心になって始めた事業であることから住民の多くが応援する気持ちを持って暖かく見守っている。加えて地元産の生薬（カミツレ）と水（お殿水）を使ったクラフトビールの生産と販売も町の温浴施設が始めている。産業面では八峰町や岩館地区の「ウリ」になる新たな動きが表れつつあり、岩館地区全体で支えて活発な動きを引き起こし、新たな働く場となることで人口の呼び戻しの一手になるような仕組みが必要と考えられた。

岩館地区は元々が3自治会から構成されており、地理的に散在もしていない。また、かつての小学校区であったことからまとまろうと思えば、まとまることが出来る（極端な反対意見が出ない）地区である。今後は緩く、少しずつ岩館地区としてのまとまりを強めていくように仕向けることが重要で、その岩館地区の一体感を強めていく際に活用して欲しいのが現在、計画が進行中の「岩館地区防災コミュニティセンター」である。単なる防災機能の付加された建物と認識するのではなく、普段から住民が多目的かつ自由に使える施設として柔軟な活用を検討し住民の方々にその考えを浸透させていただきたい。ワークショップ（2回目）の将来像での検討結果を反映させるならば、女性の集う場、子育て世代の悩み相談の場、若者サロンの場、子どもの遊び場・学童施設、あるいは地区内の移住相談窓口としてという活用案が挙げられた。加えて養殖サーモンの料理が味わえるカフェ（この場合のカフェは地区住民向けのサロンの意味合い）として、あるいは月一開催のクラフトビールを味わう飲み会の場として等、様々な交流機会を作っていただきたい。保育園や小学校の統廃合を契機とした世代間交流の喪失は「良くないこと」だと住民の皆さんは感じていても、その対応策を考え行動に移すのは相当な困難を伴うものである。八峰町における報告会では登壇いただいた須藤氏が本事業のワークショップに参加したことで、「若い世代から岩館地区への思いを聞き、将来の話をするのがこんなに素晴らしいものとは思わなかった」という趣旨の発言をされた。これはまさしく世代間交流の欠乏からの言い表しではないだろうか。

岩館地区においては「岩館地区防災コミュニティセンター」の計画を契機に自分たちでその活用方法を深める作業を行っていただきたい。幅広く参加者を募ることで、この作業そのものが世代間交流の促進にもなる。そうした検討作業の先にコミュニティ生活圏として岩館地区をどのように捉えていくのか、という議論が深まっていくものと思われる。そのような検討会の開催を住民側から自発的に声上がるように、自治会役員の皆様、ワークショップ参加者の皆様にリードしていただきたい。そうした動きが鈍い場合は、やはり行政から住民側へのアプローチも必要となる。住民と行政が一体となって岩館地区を良い方向に動かしていただきたい。検討会が開かれた際には本事業で作成した地元天気図は全てデータ化してあるので、ぜひとも活用いただきたい。